

# 震災日記

平成 23 年 4 月 14 日

重井医学研究所附属病院小児科 小川 誠

## はじめに

NPO 法人ジャパンハート（JH）の「東日本大震災 緊急支援活動」に参加しました。代表の吉岡秀人先生から参加を要請され、4月8日（木）から4月12日（火）の予定で申し込みました。震災から約1カ月の現地の様子、JHの活動状況を見て、重井医学研究所附属病院や創和会として今後どのような形で継続的な支援が出来るかを見極めるという目的を持って参加しました。

実際には4カ所ある拠点の内、唯一「診療所」の形態をとっている宮城県石巻市の「渡波(わたのは)診療所」に派遣されました。この地区は比較的住居が残っており、自宅で生活している人が多いところですが、しかし、海岸方向に少し行くと、街は全壊で満潮時には道路は一部浸水しています。元々、石巻の市街地からは少し離れていて、原発のある女川町が隣にあります。診療所は 4月 2 日に開かれたばかりですが、小児科Drがいたことから、この地区の小児医療を担うという性質を持っています。



**石巻市は仙台市から約30 km離れており、途中日本三景の松島を通ります。いわゆる三陸海岸の南端で、原発の女川町、南三陸町につながっています。**



**渡波地区は石巻市の東に位置しています。**

**市立病院は全壊しており、市役所で外来業務が再開されました。この地区の医療は北西にある石巻赤十字病院が全体を統括しています。一般のボランティアについては石巻専修大学に社会福祉協議会が入り全体をまとめています。**

## 日記

### 4月6日(水)

先に支援活動に行っていた吉岡先生から情報をもらう。荷物は車で運ぶから少々多くても大丈夫、風呂に入りたくなったら仙台事務所に行けばいいよ等。夕方院内報告会あり。

### 4月7日(木)

飛行機で行く予定にしていたが、予定が早まったため新幹線に変更。荷物も大型のリュックとスーツケースを持っていく。中には毎日の着替えと、MRさんにもらったおもちゃ、臨床工学部の田中技師長からのアンビュバックと酸素飽和度モニターなど。そして、非常食と2Lの水2本、トイレトペーパー2本。

東京駅から京浜東北線に乗って秋葉原のJH東京事務所へ。医師2名、看護師5名、運転ボランティア1名の計8名で出発というときに車が7人乗りと判明。荷物も多く、夕方にもう1便仙台行きが出るとのことで経験者1名が一旦帰宅。14時30分頃出発。途中で夕食を摂って21時にJH仙台事務所に到着。緊急車両は証明書があれば高速代金が無料、給油もほとんど問題なし。

事務所にはJHの女性スタッフ2名と東北大学の学生ボランティア3名がいて、4カ所の拠点と本部との連絡、メンバーの調節でいつ寝ているのか分からない位大忙し。吉岡先生いわく「仙台避難所」といわれるマンション1階にある事務所の床に、23時頃床に毛布1枚と寝袋にくるまって就

寝。23時30分頃、少し揺れたので危険防止にと頭から毛布をかぶっていると、「先生何してるんですか、早く外に出てください」と言われて慌てて靴を履く。ラジオで震度6弱、M7.4と今までで一番大きな余震。仙台の市街地でも信号が消え、駅前で水道管の破裂があった。海岸では津波警報が発令。渡波診療所とは連絡が取れず。



仙台事務所の床にブルーシートを敷いて寝ます。重井医学研究所附属病院からの支援物質が山のように積み重なっていました。

#### 4月8日(金)

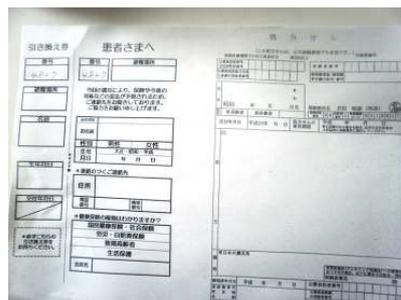
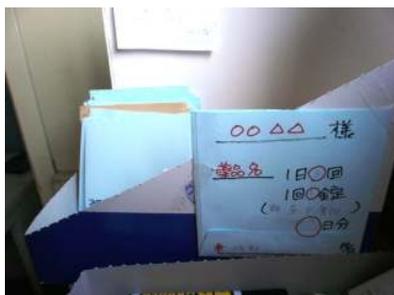
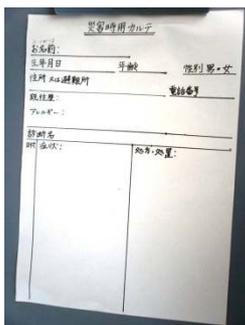
渡波診療所は無事とのことで、6時30分に仙台事務所を出発。途中信号がまだらに消えているものの早朝のためか市内は混雑無し。郊外に出ると昨夜の地震で三陸自動車道が閉鎖されているため、一般道は大渋滞。被災地で泊まれないため多くの人たちが仙台から「通勤」して朝晩は普段でも渋滞するとのこと。途中日本三景の松島を通った。点在する島のおかげで、市街地はあまり津波の被害を受けていない。石巻市街に入ると道路案内で「石ノ森萬画館」を見つけた。帰りに是非寄ってみよう。

10時頃、渡波診療所に到着。診療所開設時からいる児玉Dr（小児科）から申し送りを受ける。彼はこれから1年間の予定でミャンマーに行くとのこと。手術をしたいが小児外科医になるつもりはないと言っていた。前日から産婦人科の田中Drがいて、この診療所は小児科・産婦人科という奇妙な組み合わせ。彼は「国境なき医師団」に参加して海外での活動経験があるが、AMDAは知らない。



延期になった選挙事務所を借りた手作り診療所  
自称「昭和の診療所」

日	計	小児
1		
2 月 14日	14	9
3 20日	14	10
4月 3日	33	26
5 4日	31	25
6 5日	32	26
7 6日	44	33
8 7日	39	35
9 8日	19	13
10 9日	20	19
11 10日	39	25
12		



**手作りのカルテと薬袋。余震の影響でコピー機が壊れたため、カルテを1枚1枚手書きしてくれました。頭が下がります。院外処方箋は日赤 Dr の名前で出します。**

早速診察を始めると、花粉症と嘔吐下痢が多い。町中が埃っぽいことと、水道が復旧していないため入浴はもちろん手洗いもままならない為と推測。喘息患者も何人かいるが外国版のオムロン吸入器のためソケットがあわず使用できない。AU以外通じなかった携帯が午後3時頃急に復旧したため、今後のことを考え瀧院長に吸入器を送ってもらうよう要請（おねだりしました）。

午後6時、石巻赤十字病院での連絡会議に出席。市内を10数カ所に区分けして、医療チームを送り込み、毎日情報交換を行っている。NHKでの特集でも出ていた「石井先生」が司会をして毎日20分位で各地区の様子や、行政、医師会の活動、赤十字病院内の様子が報告される。電話も度々の余震で不通になるため、地区毎に自分たちの判断で責任を持って活動し、この会で報告することを求められる。また、院内では水洗トイレが使用できるため有り難い。

私も、創和会を代表して活動しているという自覚と、理事長と院長にはきちんと報告しようと心に誓った。

昨日の余震のため、停電、断水となっている診療所に帰って、ローソクの灯の元で今日届いたガスコンロで湯を沸かしてカップラーメンの夕食を摂っていたところ、急に電気がついた。とっても明るくうれしかった。

#### 4月9日（土）

朝から雨。寒さで目が覚めた。診療前に現地視察をしようということになって、7時に女川町に向けて出発。沿岸は全滅で、脱線した列車2両はそのまま残っている。港では自衛隊員が遺体の捜索をしていた。重機が使えないようだ。原発の町で補助金が多いためか、立派な体育館があり自衛隊が医療基地を設営していた。公共交通手段のない孤立地域のため、石巻日赤とは別行動をとっている。





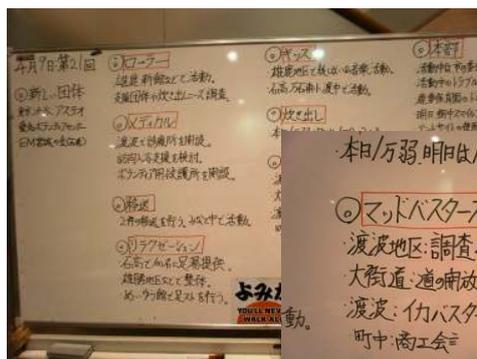
女川の港付近。建物はほぼ全滅。列車が2両転覆したまま。船が陸に上がり、小高い丘まで車が打ち上げられている。自衛隊が遺体の捜索中のように、建物の整理はまだ先。



渡波の市街地はほぼ全滅。一部道路は陥没のため、満潮時には冠水。診療所横の空き地には、自衛隊の給水車がきて朝から晩まで途切れることがない。

10時、土曜日で雨のため患者が少ないので、日赤から派遣されたチームのいる渡波小学校に挨拶と往診を兼ねて行く。前日までは高知大DMATチームだったが愛媛大、名古屋日赤、広島県医師会等のチームに代わっていた。12時、新メンバー3人が到着。1泊2日の女子医大研修医(男)と看護師、運転ボランティアの3人。

18時、日赤のミーティングに参加。咳患者増加傾向。コンタクト、めがねについては各地区に眼科医が巡回するとの情報あり。女川までのバスが再開され、町の孤立化の解消に向けて一歩前進。19時から石巻専修大学で行われる「石巻災害復興協議会」に出席。ホカ弁をゲットしたので車内で夕食。この会は医療を含むあらゆる種類のボランティアが集まる会議で、「イカ・バスターズ」「キッズ」「こころのケア」「移送」「ペット」など様々な分野が集まっており、参考になった。(4月13日の池上彰の特集番組で同日昼間の活動の様子が出ていた)



本/弱明日は/2~3食。  
 ◎マッドバスターズ  
 渡波地区:調査とゴミ上げ  
 大街道:道の開放、車両移動など。  
 渡波:イカバスターズ!!  
 町中:商工会

#### 4月10日（日）

山口Nsが仙台に戻る。彼女は残っている船越Nsと2人でこの診療所を作った（カルテ、薬袋、診察室の設営、宿泊室・・・全て手作り）同志で、涙の分かれとなった。私も、この様子を見てこの手作り診療所を是非引き継いで行きたいと心に誓った。



18時、石巻日赤のミーティングに参加。渡波地区は細分化（2分割から3分割）されて6-Cとなり、幹事は愛媛大学チーム。通水地域が増えた。まだ、未確認避難所が存在するため、わかり次第本部に連絡とのこと。市医師会長より「全70診療所の内40カ所で診療再開、7カ所は廃院」と報告。

#### 4月11日（月）

ミャンマーチーム到着。田代Dr（外科）、河野Ns等。船越Ns、田中Dr（産婦人科）が仙台に向けて出発。診療所継続に向けて、市場調査をすることになった。

8時頃サイレンが鳴り、津波注意報が出たため海岸に近寄らないようにとのこと。ラジオをつけると福島の沖でM7の余震があったことを知った。今度は起きていたが、またも地震に気づけなかった。鈍い？

#### 4月12日（火）

仙台事務所に向けて出発。移転しており、久しぶりに畳の部屋でくつろげた。帰りは高速バスで東京へ向かう。途中のSAでおみやげを買う。地元産業振興のため牛タンとずんだもちを購入。高速道路は空いていて5時間で新宿に到着。最終の東京駅には21時着。秋葉原のホテルで一泊。風呂にはいって寝る。

#### 4月13日（水）

飛行機で岡山に到着。暑い。附属病院の瀧院長に無事に帰ったことの報告に行く。たまたま理事長と専務もおられたため挨拶をした。

## おわりに

あっという間の 1 週間でした。復興へ向けての熱い想いが伝わってきました。石巻地区での石巻赤十字病院の存在感は絶対的なものがありました。震災直後から 1 ヶ月もの間、休むことなく働き、何十もの支援チームをまとめ、大学や医師会との調整をこなしていました。この地区の医療は、今までよりももっと素晴らしいものに生まれ変わる予感がします。

三陸海岸沿いの港町はほぼ全壊で、この地での再生は無理な気がします。安全な場所に住宅を造るにも、後はすぐ山です。水産業も船が壊れて壊滅状態です。前途は厳しいものがあると思います。

こんな中で、希望は子どもたちの笑顔です。子どもたちが現在の場所で暮らせる限り、街の復興が期待できると考え、私達は安心して子どもが住める街作りに協力したいと考えています。

また、日本中の誰もが何か協力したいと考えている時に、真っ先に行動に移したジャパンハートの吉岡代表やスタッフの皆さんには頭が下がります。先が見えない、情報が届かない不確定な中で、これだけの事を行っているのは大変なことです。

今回一番に感じたことは、組織にはリーダーが必要です。しかし、リーダーの仕事は全体の方向性を決めることであり、現場では各自が自分の責任の下、自分で考え判断して行くことが大事で、情報を全員で共有することが大事です。評論家はいません。この世界にはいった時、医療に恵まれない人たちの役に立ちたいと思ったのは私だけではないと思います。今の恵まれすぎた環境に慣れすぎた自分を深く反省しています。

最後になりましたが、私達は創和会という大きな組織に属し、理事長、院長共に震災支援に対しては全面的にバックアップを約束してくれています。先陣をきることはできませんが、継続した支援を行う体力があります。熱しやすく冷めやすい日本人の気質ですが、腰を据えて継続した支援を行いたいと考えています。今はまだ模索中ですが、方向性が決まりましたら皆様に参加をお願いしたいと思います。

後日、報告会をしたいと思いますので多数ご参加下さい。